



新型コロナウイルスと歯科診療

歯科口腔外科 医師 小林 博和

新型コロナウイルス感染症が世界的な流行

を見せ1年以上が経過しました。未だ終息の兆しを見せず、一体どのような結末を迎えるのか全く予測できない状況が続いています。そこで、今回は歯科診療と新型コロナウイルスの関係性や、当科外来における新型コロナウイルス対策と診療体制についてお話しします。



歯科受診により新型コロナウイルスの感染リスクがあるかどうか。多くの患者さんが気にされていることでしょうか。メディアには様々な情報が氾濫し正確な情報を得ることが困難な状況です。実際はどのようなのでしょうか。結論から言うと、歯科治療によって患者さんが新型コロナウイルスに感染するリスクは限

りなく低いといえます。

歯科治療時には歯を削る際に器具から排出される水や口の中の唾液が飛沫状になりエアロゾルが発生すると考えられますが、ほとんどが口腔内バキュームと呼ばれる吸引管により口の中で除去されます。さらに適切に診療室内の換気を行ない、場合によっては口腔外バキュームといわれる装置を併用することにより治療中に発生したエアロゾルが診療室内に拡散する可能性は極めて低く、飛沫により新型コロナウイルスに感染する危険性も低いといえます。しかし、適切な換気が行なわれていなかったり、診療室内が過度に密な空間であったりするなどの環境下ではその危険性を否定しきれなくなってしまうます。歯科治療を受ける際には適切な感染対策を行なっているか確認してみるといいでしょう。

不用意に持ち込ませないことなどの当院での徹底した感染対策とは別に、さらに当科外来ではどのような取り組みを実施しているか説明します。

当科外来診療室は、治療ユニット同士の間

隔が狭いなど、従来通りの診療体制では十分な環境であるため、昨年から外来診療を完全予約制としました。また、1日の外来受診数を厳密に管理し、診療の合間に適切な換気を行なうことで感染防止に努めています。予約なしで来院された場合は、ごく一部の緊急性の高い症例を除き診察することができないため、事前に電話等で診察予約を取得してから来院ください。

また、従前より地域の開業歯科医院と連携して専門性の高い歯科口腔外科診療に特化しています。むし歯の治療や義歯製作といった一般的な歯科治療を行なっておらず、原則紹介となっております。まずは、かかりつけの歯科医院に相談し、診療情報提供書を発行してもらった上で当科の受診予約をお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症が猛威を振っている昨今、限られた医療資源で安全で安心な歯科医療を地域の皆さんに提供するため、当科外来の診療体制にご理解とご協力をお願いします。

